



2022 年 5 月 12 日

各位

会 社 名	三菱商事株式会社
代表者名	代表取締役会長 垣内 威彦 (コード:8058、東証プライム)
問合せ先	広報部 報道チームリーダー 岡本 卓馬(03-3210-2171)

当社子会社（中央化学株式会社）の 2022 年 3 月期通期業績予想の修正のお知らせ

当社の連結子会社である中央化学株式会社が、2022 年 3 月期通期（2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日）の業績予想の修正を公表いたしましたのでお知らせいたします。

尚、これによる当社の 2022 年 3 月期個別業績及び連結業績への影響は軽微です。

（添付）

- ・ 中央化学株式会社の開示資料

以上



2022年5月12日

各位

会社名 中央化学株式会社

代表者名 代表取締役社長 社長執行役員 近藤 康正

(コード番号 7895)

問合せ先 取締役常務執行役員 管理本部長 森本 和宣
役職 氏名

電 話 048-542-2511

2022年3月期通期業績予想の修正のお知らせ

当社は、2022年3月期通期業績予想につきまして、下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正等について

2022年3月期通期連結業績予想数値の修正（2021年4月1日～2022年3月31日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想 (A)	48,400	1,200	1,100	800	円 銭 39.70
今回修正 (B)	47,666	787	979	617	28.54
増減額 (B-A)	△734	△413	△121	△183	
増減率 (%)	△1.5%	△34.3%	△10.9%	△22.9%	
(ご参考) 前期実績 (2021年3月期)	47,936	2,359	2,385	2,170	107.72

(注) 1株当たり当期純利益の算定については普通株主に帰属しない金額を考慮しております。

2022年3月期通期個別業績予想数値の修正（2021年4月1日～2022年3月31日）

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想 (A)	41,700	700	500	円 銭 24.82
今回修正 (B)	39,308	264	34	△0.39
増減額 (B-A)	△2,392	△436	△466	
増減率 (%)	△5.7%	△62.3%	△93.2%	
(ご参考) 前期実績 (2021年3月期)	40,854	1,472	1,434	71.18

(注) 1株当たり当期純利益の算定については普通株主に帰属しない金額を考慮しております。

2. 修正等の理由

新型コロナウイルス感染の影響が長期化し、世界的なサプライチェーンの混乱により資源価格等が高騰する中、当社は、衛生・安全管理を徹底し、品質向上・製品安定供給に努めると共に、業務の効率化等を推進してまいりましたが、連結、個別共に売上高、各利益とも減少する見込みです。

売上高は、素材・製品の開発を進め事業基盤を着実に強化している中国では増収基調に推移している一方、日本では、テイクアウト・デリバリー向けは引き続き好調に推移しましたが、巣籠需要の反動としてスーパーマーケット生鮮食品向け製品の出荷が低調であったこと、引き続きイベント、観光、外食等向けは回復しなかったこと等より、売上高は減少となります。

利益は、原油価格に連動する原材料費、電力代、物流費等が高騰し、日本、中国とも減少となります。特に日本では、2021 年 11 月に製品価格改定の方針を発表し価格修正に取り組みましたが、当社の主原材料であるスチレン系樹脂価格の度重なる大幅な上昇等により利益率が低下しました。

足元では、2022 年 2 月 24 日以降のウクライナ危機に起因してエネルギー価格の高騰が加速し、原材料、電力代、物流費等再び騰勢を強めています。当社としましては、あらゆる機能で合理化、効率化等自助努力を尽くすものの、それだけでは吸収は極めて困難な状況にあり、度重なる改定で誠に遺憾ながらも、2022 年 5 月 2 日に再度の価格改定の実施を発表致しました。また、環境配慮型素材・製品の拡充、新市場・成長市場への取り組み強化、日本・中国両事業の連携加速等を推進し、「変革・挑戦・開発」をスローガンとして企業価値の向上を実現してまいります。

(注) 上記の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって上記の予想とは異なる結果となる可能性があります。

以 上